



今津

NO.292

編集・発行
 今津コミュニティ編集委員会
 事務局
 西宮市今津二葉町4-49
 23-4905
 連絡先
 46-7889 (大段)

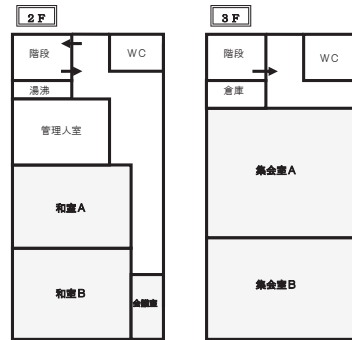
今津南市民館どこ存じですか

どこにあるの？ 利用申込は？

今津地域には、地域住民がコミュニケーションをとるために利用できる場所は、今津公民館・今津あいあい館・今津南会館・今津南市民館・福應会館があり、会議やグループ活動などに広く使われています。

その中で、今津南市民館があまり利用されていないとのこと、現況を管理人の米田能里子さんに聞きました。

今津南市民館は、地域内に会合などでたくさんの方が集まれる場所が今津研修センター（現・今津あいあい館）しかなく、そこも50人までしか対応できない広さだったため、今津南保育所敷地内に昭和48（1973）年3月末に完成しました。3階建ての建物で2階と3階が市民館です。2階は和室A 31・5畳、和室B（現在は床面フローリング）36畳、小会議室があり、3階は109㎡の集会室Aと



115㎡の集会室B（現在3階部分は実質武道場として利用）として、昭和48年5月から利用を開始しました。

当初は多くの人が活発に利用していましたが、最近では極端に減り、グループが1つ、地域の会合が月に1回程度で、2階はほとんど使われていない状況になっています。3階も、夜間に今津武道会の稽古場として利用されているだけになっています。

なぜ、利用が減少？
 ● 会合や趣味の会がなくなり、利用できるという認識が低

くなった

● 集まる機会が少なくなった

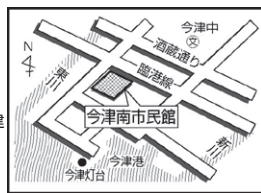
● エレベーターがなく、和室は使いづらい

● 武道場のイメージがあり一般の人は利用できないと思われる

● 大型マンションが増え、大きな集会室があるなどの理由が考えられます。

今津南市民館では、昨年2階和室Bをフローリング化しました。3階の武道場も昼間は利用できます。

- (1) 所在地 千663-8227 今津出在家町10番5号
- (2) 連絡先 0798-22-4892
- (3) 建設年月日 昭和48年3月30日
- (4) 構造 鉄筋コンクリート造3階建
- (5) 敷地面積 今津南保育所敷地に併設
- (6) 延床面積 621.21㎡
- (7) 休館日 日曜日・祝日・年末年始
- (8) 収容人員、使用料



今津南市民館

室名	広さ	場所	収容人員	使用料		
				午前 9時～正午	午後 0時半～5時	夜間 5時半～10時
和室A	31.5畳	2階	45人	900円	1,250円	1,250円
和室B	36畳	2階	50人	1,000円	1,400円	1,400円
会議室	13㎡	2階	10人	200円	300円	300円
集会室A	109㎡	3階	80人	1,550円	2,150円	2,150円
集会室B	115㎡	3階	80人	1,700円	2,250円	2,250円

注) ・冷暖房費は使用料に含まれます。

- (9) 交通アクセス
・阪神電車、阪急電車「今津駅」より南へ徒歩10分。
- (10) その他
・エレベーターなし。
・今津南保育所と併設。



参考：市ホームページ「地区市民館」

問い合わせ・利用申し込みは
 9～17時
 0798-22-4892
 管理人 米田能里子

広くゆったりと、安い費用で利用できます。
 みんなで活用しましょう!!
 せっかくの施設です。地域住民の皆さん、交流の場として、ぜひ利用をお勧めします。

世の中の変化に対応する話 急激に進むペーパーレス社会



IT（情報技術）の進歩による情報共有ネットワークの充実や、パソコンやスマートフォンなどデジタル製品の普及に伴い、文書や書類や新聞など紙媒体を電子化して共有・伝達・保存するペーパーレス化が急激に進んでいます。

紙を作るには森林などの資源を大量に使用します。森林は地球温暖化の原因である二酸化炭素を吸収してくれませんが、また、紙を破棄して焼却すると二酸化炭素が発生します。紙は作る時も処分する時も地球環境に悪影響を与えているということになります。

このようなSDGsの観点から、国や自治体、民間企業なども積極的に取り組んでいることもあり、ペーパーレス化が進んでいます。

大きなメリット 保管倉庫が必要なくなる

デジタル化が進むことにより、文書が電子媒体で管理さ

れ情報共有や検索が効率よくできるようになりました。当然紙媒体の書類や資料を保管しておくには大きなスペースが必要ですが廃棄物の削減とともに、無駄なスペースが不要となっています。

少し前までは、いろいろな書類や契約書に目を通して署名や押印するのに時間がかかっていましたが、オンラインで効率的に閲覧できるようになり、電子署名も普及し、組織内での閲覧や稟議、取引契約締結などが効率的に行われるようになってきています。

デジタルコミュニケーションの進歩

電子メールやSNSの普及に伴い、手軽にメッセージ交換や会話できるようになり、手紙やはがきなど紙媒体でのやりとりが少なくなってきました。というか、不要となってきました。

年賀状や暑中見舞いなど郵便物も急減

年々、郵便物全体も減少しています。年賀状も毎年減少し、平成15（2003）年のピーク時と比べると3分の1程度になっています。

手紙やはがきを送るためには、はがきや封筒の購入、住所の確認、内容記載、切手の貼り付け、ポストへの投函などの手間とコストがかかりました。デジタルコミュニケーションはこれらの手間やコストを削減できます。環境への意識の高まりもあり、デジタル化を選択する人が多くなってきており「年賀状じまい」をする人も多く、長年の文化も形を変えてきています。

年賀状や暑中見舞いのあいさつは文化や伝統に根ざした行為のため、あいさつ状を含めた郵便物全体がゼロになることはないと思われませんが、今後も減少していくとともに郵便料金は大幅に高騰していくでしょう。

新聞の発行部数も減少

日本新聞協会が公表しているデータによると、ピーク時の

平成12年に約5370万部発行されていた新聞は、令和5年には約2859万部にまで減少しており、今後もさらに減少していくと推測されます。

減少の最大の要因は、インターネットの普及により、多くの人がいつでもどこでも簡単にオンラインニュースの閲覧やいろいろな情報をタイムリーに入手できるようになったため、新聞という媒体の必要性がなくなってきたことです。購読者の多くが高齢化しており、特に若年層の間ではデジタル媒体を好む傾向があり、新聞を情報供給源としていない人が多くなっています。小売店のセールやスーパーの安売り情報を新聞のチラシで見えていたのが、今はスマートフォンで検索して見ることができます。

発行部数の減少に伴い、広告費も大幅に減少しているため、各新聞社は経営を工夫しています。夕刊を廃止したり、配達を他社と提携したりするとともに、デジタル化に対応し、オンラインニュースやデジタルコンテンツに力を入れ、読者の獲得に力を入

ています。

新聞を作るには印刷や配送が必要のため、たぐさんの紙やエネルギーを消費します。環境面の観点からもデジタル化が好ましいですが、少し寂しいですね。年賀状同様に新聞紙面を選ぶ人もいるためゼロにはなりません。今後発行部数は大幅に減少していくと予想されています。少なくなると料金も高騰していきます、自宅へ配達するには高額料金が発生することになるかもしれませんね。

本の減少

電子書籍の普及や人口減少の要因もあり、紙媒体の書籍や漫画雑誌の発行部数も年々減少しています。昔は当たり前のように家にあつた百科事典も見かけなくなっています。

新聞と同様に、週刊誌もインターネットの普及により、ニュースや情報を無料、または安価で最新の情報を入手できるため、紙媒体の週刊誌の必要性が少なくなり、発行部数は10年前と比較すると半減。発行の停止や他の雑誌との統合、デジタル化を推進す

ることで各会社も生き残りを図っています。

書店の減少

町の本屋が近年、大幅に減少してきています。特に、この町にもあった小規模の店が、カフェを併設するなどの集客の工夫をした大規模書店やチェーン店に押されていることも重なり、少なくなってきました。

町の本屋は本を買う場所だけでなく、お薦めの本はもちろん、いろいろな情報が入る、地域に住む人の交流の場の一つとしての役割も果たしています。そのような場所が少なくなつてきているのは寂しいですね。これも電子書籍の普及による影響もありますが、インターネットを介して購入するケースが増加し、書店に足を運ぶことが少なくなっていることも大きな要因です。実際の本を手元に置いておきたい人も多く、新聞や週刊誌ほどの減少はありませんが、今後は電子書籍化が進むと思われます。

金融機関も変わっていく

どの金融機関も、業務の効

率向上、コスト削減、環境負荷の軽減を目的としてペーパーレス化を進めており、キャッシュレス決済の普及もあり、紙通帳を廃止して電子化を推進しています。

24時間、いつでもどこでもパソコンやスマートフォンから簡単に口座管理や振り込みができるようになっていきました。振り込みなどいろいろな取引がインターネットを通じて行えるようになり、紙の取引記録や請求書が電子化され、全てがデジタル上で完結します。実際の店舗を持たないネット銀行は手数料が安いというメリットもあり、年々増加しています。

今後は、実店舗を持つ金融機関の店舗集約や店舗での取引手数料の高額化、紙通帳の有料化などもあり、窓口での人を通じての対応には手数料が必要となり、インターネットを使えない人には不便なことが多くなつていきます。

チケットも電子化

映画やコンサート、プロ野球などの娯楽もインターネットで予約して電子コードで入場。飛

行機やJRも同様。身近な電車やバスやタクシーも電子決済が主流になってきており、紙チケット廃止を推進しているところが多くなつています。逆に、たまに駅で切符を買う時には戸惑うことがありますね。

ペーパーレス化のメリット

- 地球環境保護
- 紙媒体の製造・印刷・配送・保管コストの低減
- 業務効率の向上による時間と労力の低減
- 災害によるデータ消失リスクの低減

ペーパーレス化の問題点

- 幅広い世代で使いこなせる知識の習得が必要
- 人と人のコミュニケーションの減少
- 情報漏えいなどに対する安全対策
- 減少する郵便や新聞料金、紙媒体を使用する場合の手数料の高騰
- 災害時などの通信障害発生時に使用できない

どんどん進むペーパーレス化

いろいろな情報誌、タウン

ページや電話帳もなくなり紙媒体は少なくなつてきています。名刺も将来はなくなるかもしれません。電子決済を使用する人も徐々に多くなり、キャッシュレスも推進され、現金を使う頻度も少なくなつてきています。

なんといっても地球環境には良いことです。今後もペーパーレス化はどんどん進みます。現実的に古紙回収で新聞や書籍類は急減しているのも、この傾向を物語っているようです。

逆に増えているものもある

ネット販売の利用増加に伴い、宅配の利用急増で段ボールの回収が急増しています。段ボールも回収再生していますが、環境面でいうと、この段ボールの役割を何らかの方法に変えることができればとても大きなペーパーレスになりますね。



変化にはみんなで助け合つてついでいきましょう

技術の進歩により便利な世界になってきていますが、その技術を理解、習得して使えないと便利を享受できません。「自分には無理」「まだいいや」「誰かがしてくれ」というようにしていると、知らない間に置いてきぼりになつているかもしれません。

人口減少の要因もあり、世の中これからさらに急激に大きく変化していきます。当たり前だったものが当たり前でなくなることもたくさんあります。

「自身でできることはできるだけ自分で完結してもらいたい」この考え方が主流になつてきています。

進歩に伴い、最初はドキマギして慌てますが、方法が分かるととても便利です。頭を切り替えて、変化についていく知識の取得も必要です。

「知らないことは知っている人から聞いて」「知っている人は知らない人に話して」みんなで助け合つて、協力して進歩という変化についていきましょう。

講座のお知らせ

今津公民館 (22-3529)

11月28日(木) 10:30 ~ 12:00

「リボンで作るクリスマスリース」

定員：15人 材料費：1,500円

申し込み：オンライン申し込み

場所：第2集会室

12月12日(木) 13:00 ~ 14:30

「かわいい韓国手芸を作りませんか」

定員：10人 申し込み：オンライン申し込み

材料費：詳細はチラシにて案内

場所：3階講堂

12月27日(金) 10:00 ~ 15:00

「子どもお習字」

対象：小学3・4年生 10:00 ~ 12:00

小学5・6年生 13:00 ~ 15:00

参加費：無料

南甲子園公民館 (49-4741)

12月1日(日)

① 13:30 ~ 14:10 ② 14:20 ~ 15:00

③ 15:10 ~ 15:50

お茶会 ~お抹茶一服いかがですが~

申込：11月21日(木)

10:00 ~ 11:00 (来館のみ・先着順)

一人で2名まで可

対象：一般(中学生以上)

材料費：500円(申し込み時)

定員：3席各10人/30人

*詳細については、各公民館にお問い合わせください

高齢者元気まつり

11月26日(火)

ホテルヒューイット 甲子園2階「甲陽の間」

時間 13:30~15:00

(14:00までに入场してください)

催し物 ①ジャズ演奏

サクソ：黒河博文 ギター：野江直樹

ベース：井上 歩

②変面・マジックショー

あくあ 亜空亜SHIN



今津地域の指定避難場所が異なります

今津小学校が改修工事のため、令和6年8月8日(令和8年1月(予定)までの間、指定避難場所が「今津中学校」となります。災害発生時のいざというときの避難場所として認識しておいてください。

薄れる地域のつながり 衰退する地域活動 このままでいいのか？

少子高齢化や世の中の変化に伴い生活環境や人の考え方も変わってきて、全国的に地域に住む人と人とのつながりや関係性が薄くなってきています。そして、自治会やPTA、子ども会、いろいろなボランティア活動など、い

わゆる地域の組織的な活動が低下してきています。

今津地域も同様で、「自治会を手伝う人がいなくなり活動ができない」「夏休みの子ども活動や小学生の登下校時の見守り活動を手伝う人がいなくなり、やめざるを得なくなつた」「子ども会もいつのまにかなくなった」など、残念ながらせつかくみんなに喜ばれてきた良い活動がどんどんなくなつてきていると同時に、人と人とのつながりがどんどん低下してきています。来年度の役員改正で担い手がいなければ、町会や老人会の活動を休止せざるを得ないという動きが出ています。このままで大丈夫？

災害発生時は、まず自分のことを守る「自助」、自分が無事であれば他の人を助ける「共助」となりますが、普段から付き合いがない人同士がすぐに助け合えるでしょうか。今津地域ではまだ続いているのですが、小学校への集団登校も少なくなつてきており、小さい子をみんなで守り、いろいろなルールを教えるという自然にできた教育もなくなつてきています。

担い手不足

人と人とのつきあい、地域の住民のつながりは大切で、必要だということは分かっている人は多いですが、いざその組織を取りまとめる役割を担える人が少なくなつています。このままでは世代間の交流が減少し、地域の歴史や伝統・文化・行事を伝承できなくなり、地域への帰属感も薄れていくこととなります。

将来に向けて

全ての世代の視点で検討

地域コミュニティの活性化継続に向け、他地域団体へ参加やボランティア活動を推奨する政策の検討、地域行事の定期的な開催、デジタルを活用した情報発信や交流の場の提供などを、特定の世代に偏らず、子どもから高齢者まで全ての世代が共有できる視点で考えていくことが大事です。「宮っ子」今津」も微力ですが、地域全体のつながりに向け情報発信していきます。

ホームページ 二次元コード



「宮っ子」今津では、ホームページやSNSからも、より詳細な地域の情報を発信しています。